

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

〔取り組みレポート〕 学生ファシリテーター配置によるグループワーク形式授業の学習支援効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學教育開発推進機構 公開日: 2023-02-09 キーワード: グループワーク形式授業, 学生ファシリテーターの学習支援行動, リフレクション・サポート, ストレッチ・サポート 作成者: 星野, 広和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002122

学生ファシリテーター配置によるグループワーク形式授業の学習支援効果

星野 広和

【要 旨】

本稿は、國學院大學経済学部ของกลุ่มワーク形式授業である基礎演習Bにおいて、学生ファシリテーター（以下、FAと略記）の学習支援行動が受講生に対してどのような影響を及ぼしているかを検証したものである。本稿では、FAの学習支援行動を表す因子として「リフレクション・サポート」と「ストレッチ・サポート」を抽出し、受講生が基礎演習Bから得るものとして、「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」を抽出した。FAの学習支援行動を独立変数、受講生が得るものを従属変数として回帰分析を行った結果、FAの学習支援行動が受講生に影響を及ぼしていることが確認された。また、FAの学習支援行動の加算平均における上位クラスと下位クラスとでは、有意に上位クラスの方が受講生が得るものの平均値が高いことが分かった。

【キーワード】

グループワーク形式授業、学生ファシリテーターの学習支援行動、リフレクション・サポート、ストレッチ・サポート

1. はじめに

本稿の目的は、平成28年度の「学部学修支援事業」の目的である、学生ファシリテーター（以下、FAと略記）配置によるグループワーク形式授業の学習支援の概要を説明し、客観的な分析をもとにその効果を検証することである。結論を先取りすれば、FAの学習支援行動は受講生が得るもの、特に大学生の学習基盤、能動的な学習態度、学術への興味関心、に対して影響を及ぼすことが確認された。

2. 学生ファシリテーター配置によるグループワーク形式授業について

(1) 学生ファシリテーター配置授業

平成28年度「学部学修支援事業」の目的は、経済学部のグループワーク形式授業実施に際し、履修している学生の支援を行う学生ファシリテーターを配置することであった。一般的に課題解決型授業（PBL）といわれるグループワーク形式の授業を実践する際にFAを1クラスに1名ずつ配置し、学生の議論の活性化を促すとともに、学習の支援も行うことを目的としていた。対象となる授業科目は「基礎演習A」（1年前期）、「基礎演習B」（1年後期）、「経営学特論（リーダーシップ）」（1年後期）、「経営学特論（ビジネスデザイン

1)」（2年前期）である。なお、平成28年度より「基礎演習A・B」において全クラスでグループワーク形式を取り入れ、FAを配置することになった。

（2）基礎演習Bの講義目標・計画

平成28年の基礎演習Bでは、専門教育への導入・問題意識の養成をテーマとし、グループワーク形式によって外部組織から与えられた課題解決を図ることを目的とした。その際、基礎演習Aにおいて学修した基本的スキルを前提にして、「答え」がない課題に取り組むことになり、自ら積極的に調べ、考え、他者との議論を通じて精緻化していかなければ解決策は立案できない。平成28年度は、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社に協力をお願いし、『『レモン』（または商品名で「ポッカレモン100」）を食卓（日本市場）で今よりも多く使ってもらえるようにするにはどうしたらいいのか具体的に考える」という課題を提供していただいた。

（3）FA業務

この目的を達成するためのFAの業務内容として、授業時には、①グループワークをサポートするファシリテーター、②グループワークの時間を管理するタイムキーパー、③授業前の機材の準備などを担う。授業時間外には、①学生の授業準備のサポート役、②大学生活の相談にもものるピア・サポーター、③クラス担当者会議に参加し教員と共に授業改善に取り組む役割、④先輩FAが後輩FAを指導することによりFA同士での経験を共有し育成を図る、ことがある。この内容をもとに、当該授業のすべての時間にFAを配置し、さらには公式・非公式を含め複数回の研修を行っている。

3. アンケート調査について

（1）調査目的

調査は國學院大學経済学部基礎演習の科目改善とFA制度化に向けた検討材料を提供してもらうため、株式会社イノベストに調査を依頼し、平成28年度後期の基礎演習Bの受講生に対するアンケート調査結果（基礎演習Bの最後の授業で実施）と授業見学結果をもとに、どのようなFAのいるクラスが高い学習効果を生んでいるかについての報告を受けた。

（2）調査の概要

イノベスト社は、基礎演習Bを受講した学生に対し、FAの学習支援行動と基礎演習Bから得たものに関して、アンケートをもとに調査を行った。アンケートは、各クラスの任意で実施し、全351名（男子252名、女子99名）から回答を得た（図表1参照）。以下、イノベスト社によるアンケート調査（「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」）をもとに、調査概要および調査結果を記述する。

学科別の回答者内訳				
性別	経営	経済ネットワーク	経済	合計
女性	35	21	43	99
男性	56	52	144	252
合計	91	73	187	351

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」,p.2

図表 1 アンケート回答者の学科別内訳

この調査では、FAの学習支援行動を測定する調査項目として、松尾睦（2014）の「職場のリフレクションを促すリーダーシップ」を参考にしている⁽¹⁾。質問紙には「受講生への個別配慮・自由な発言の奨励・問題分析と解決策立案・目標ベースの内省・解決策の実行支援」の5項目からなる23設問を使用した。その他、「FAのリーダーシップ」や「ロールモデル」などイノベスト社が独自に採用している調査項目を追加している。

受講生が基礎演習Bから得たものに関しては、基礎演習Bが明確な学習目標を整備中⁽²⁾であるため、イノベスト社が他大学のリーダーシップ開発プログラムで使用している調査項目、具体的には「学習姿勢」「学習効果」「帰属意識」3項目からなる12設問を使用した。また、「FA志望」や「FAの満足度」「教員の満足度」に関する設問も加えた。回答の際には、「5 とても当てはまる」「4 当てはまる」「3 ほぼ当てはまる」「2 あまり当てはまらない」「1 当てはまらない」から、1つ選ぶ単一選択方式で回答するようにした。

4. アンケート調査の結果と分析

(1) 各設問への回答

各設問への回答スコアの加算平均を調査項目ごとにまとめたものが以下の図表である(図表2、3参照)。クラスによって回答者数にバラツキがあるため、分析の限界があることは留意すべきであるが、次のような傾向は見て取れる。なお、「経営A」は「経営学科」の「A組」を表すが、クラスが特定できないように、ランダム化した上で各クラスにラベルをつけている。

- 1) 学年全体の平均値とクラス別の平均値を比較した結果、学年全体の平均値を超えた調査項目数において「経営D」「経営F」「経ネA」「経済A」「経済C」が上位クラスであったこと。
- 2) 一方、十分なサンプル数をもつクラスの中で「経営B」「経済E」「経済G」「経済H」「経済I」が下位クラスであったこと。

項目	座数	受講生への個別指導	自由な発言の奨励	課題分析と前伏筆立案	目標ベースの反省	解決策の実行支援	FAのリーダーシップ	学習姿勢	学習効果	理解度	ロールモデル	FA意識	FA満足度	教員満足度	全体平均以上の項目数
全体	351	4.51	4.47	4.40	4.32	4.35	4.37	4.00	3.94	3.98	3.76	2.94	4.48	4.30	/
総合A	5	4.44	4.27	4.34	4.20	4.07	3.93	3.93	3.91	3.80	4.10	3.40	4.60	4.00	3
総合B	10	4.16	4.50	4.19	4.00	4.13	4.26	3.86	3.02	3.94	3.47	2.83	4.08	4.17	1
総合C	19	4.63	4.54	4.38	4.37	4.30	4.46	4.04	3.97	3.88	3.79	2.74	4.53	4.47	8
総合D	10	4.53	4.54	4.40	4.41	4.39	4.39	4.00	4.02	4.03	4.03	3.81	4.61	4.39	12
総合E	9	4.51	4.41	4.33	4.15	4.37	4.37	3.89	3.84	4.06	3.89	3.33	4.56	4.56	8
総合F	16	4.70	4.69	4.81	4.89	4.75	4.77	4.33	4.31	4.47	4.13	3.38	4.69	4.31	13
総合G	6	4.27	4.39	4.31	4.33	4.58	4.50	4.00	4.05	4.17	3.87	3.17	4.67	4.17	7
総合A	24	4.60	4.51	4.52	4.54	4.53	4.50	4.43	4.32	4.25	4.08	3.58	4.71	4.54	13
総合B	23	4.71	4.68	4.60	4.45	4.48	4.59	3.99	4.02	3.89	3.76	3.28	4.52	4.26	10
総合C	2	4.50	4.05	4.50	4.00	4.03	4.00	3.33	2.93	2.50	2.50	1.00	3.03	3.00	0
総合D	17	4.73	4.61	4.53	4.29	4.33	4.29	4.16	4.05	4.03	3.97	2.53	4.62	4.35	9
総合E	6	4.43	4.50	4.14	4.22	4.28	4.11	3.83	3.48	3.92	3.00	2.33	4.50	4.33	3
総合F	1	4.20	4.00	4.14	4.00	4.67	4.67	5.00	4.00	4.50	3.00	4.00	5.00	4.00	7
総合A	25	4.45	4.48	4.47	4.37	4.53	4.47	4.12	4.08	4.10	3.96	3.00	4.64	4.80	12
総合B	19	4.26	4.18	4.14	4.11	4.23	4.26	3.85	3.90	3.97	3.79	3.21	4.16	4.32	4
総合C	24	4.86	4.82	4.66	4.67	4.69	4.81	4.36	4.16	4.25	4.08	3.00	4.79	4.92	13
総合D	16	4.71	4.56	4.54	4.52	4.40	4.44	3.58	3.82	3.72	3.94	2.60	4.81	4.31	9
総合E	21	4.42	4.33	4.54	4.41	4.39	4.11	3.70	3.61	3.89	3.87	2.48	4.39	3.81	9
総合F	23	4.59	4.52	4.41	4.14	4.36	4.41	3.86	3.77	3.93	3.57	2.17	4.52	4.65	7
総合G	23	4.14	4.20	4.19	4.08	4.12	4.15	4.02	4.01	3.88	3.86	3.09	4.09	4.05	4
総合H	18	4.14	4.19	3.96	4.00	3.94	3.94	3.44	3.48	3.78	2.86	2.50	3.94	3.22	0
総合I	18	4.33	4.30	4.16	4.17	3.96	4.11	3.86	3.84	3.61	3.33	3.00	4.28	4.22	1

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.3.

図表2 アンケート結果 (加算平均一覧表)

要請生への個別対応	<p>私のクラスのFAは、受講生一人ひとりに、よく声をかけている</p> <p>私のクラスのFAは、受講生の成長を促すためのサポートをしている</p> <p>私のクラスのFAは、受講生のモチベーションを高めるように努めている</p> <p>私のクラスのFAは、受講生の悩みや不安を察知し声をかけている</p> <p>私のクラスのFAは、受講生の自主的な学習を促している</p>
自由な発言の促進	<p>私のクラスのFAは、全体的なグループワークの進行の助け、受講生全員がしっかりと発言できるように配慮している</p> <p>私のクラスのFAは、タイミングよく発言を促すように、積極的な意見を引き出している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生に積極的に声をかけている</p>
質疑分析と解決策立案	<p>私のクラスのFAは、グループワークの停滞など、気づいてくれることが期待できると考えている</p> <p>私のクラスのFAは、フィードバックを積極的に行いながら、丁寧に促すことが期待できると考えている</p> <p>私のクラスのFAは、グループが内向きになっている状態を察知する工夫を講じている</p> <p>私のクラスのFAは、受講生の成長について気づかせている</p> <p>私のクラスのFAは、気づきにくい点やポイントなど、受講生の自主的な学習を促している</p> <p>私のクラスのFAは、気づきにくい点やポイントなど、積極的に声をかけている</p> <p>私のクラスのFAは、気づきにくい点やポイントなど、積極的に声をかけている</p>
目標ベースの内省	<p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p>
解決策の実行支援	<p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p>
FAのリーダーシップ	<p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p> <p>私のクラスのFAは、受講生が自ら気づくことを促している</p>
学習姿勢	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
学習効果	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
意図的行動	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
ロールモデル	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p> <p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
FA志望	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
FA満足度	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>
教員満足度	<p>私は、FAが受講生の成長を促している</p>

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.4

図表3 アンケートの設問(一覧表)

(2) アンケート調査結果の分析

加算平均の上位クラスと下位クラスでは、FAの学習支援行動にどのような違いがあるかを検討するため、追加分析を行った。具体的には、探索的因子分析を行い、FAの学習支援行動と受講生が得たものに関する因子を抽出した(図表4参照)。その後、抽出した因子を用いて回帰分析を行い、FAの学習支援行動と受講生が得たものにどの程度の影響が与えられているかについて分析を行っている。最後に、因子を元に、再び上位クラスと下位クラスを設定し「受講生が得たもの」を従属変数、「FAの学習支援行動」を独立変数として一元配置分散分析を行った。

まず、FAの学習支援行動に関する因子分析だが、抽出には最尤法、回転方法にはプロマックス法を用いた。なお、因子決定数の決定には固有値1以上を基準として、スクリープロットの検証もあわせて2因子を仮定した。因子負荷量が.400以上を示す項目を各因子の解釈に用いたところ、十分な適合度を得ることができなかった。そこで、パターン行列を検証した上で、回答者の反応を混乱させられる項目と十分な因子負荷量を示さなかった項目(.400以下)を分析から除外し、再分析した。その結果、十分な適合度が得られたため(カイ2乗=19.472、p値=.10)、2因子が妥当であると判断した。

第1因子には、「目標ベースの内省」と「問題分析と解決策の立案」に関する4設問が十分な因子負荷量を示した。受講生が学習目標を意識しながら経験から学びを得ることを

パターン行列 (FAの学習支援行動)			
設問 (上位クラスのみ)	第1因子 リフレクション・サポート ($\alpha = .81$)	第2因子 ストレッチ・サポート ($\alpha = .80$)	共通性
授業で学んだ知識の応用を 実践している	0.84	-0.07	0.77
再び説明したり、復習しなおすために、 何度も先生と質問を 繰り返している	0.76	0.10	0.71
授業で学んだ知識のことに慣らし、 一般的で、どこでも 関連があるかを常に考え、 実践の応用を求めている	0.73	0.13	0.71
私のクラスの先生は、 受講生の疑問について 答えてくれる	0.61	0.26	0.69
受講生の疑問や質問が 決まるまで待っている	-0.11	0.98	0.81
受講生の自律的な学習を促している	0.16	0.68	0.66
タイミングよく助けを貸すことで、 学習の発展を促している	0.21	0.67	0.72
受講生の考えや知識を 知るよう努めている	0.30	0.58	0.70

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.5.

図表4 FAの学習支援行動

支援する行動と考えられることから「リフレクション・サポート」と名付けた。第2因子には、「受講生への個別的配慮」と「自由な発言の奨励」に関する4設問が十分な因子負荷量を示した。受講生個々の違いを観察しながら学習に必要な行動を促す支援と捉えられることから「ストレッチ・サポート」と名付けた。各因子のアルファ係数は十分高く（リフレクション・サポート＝.91、ストレッチ・サポート＝.90）、信頼性も確認された。

次に、受講生が得たものに関する因子分析だが、FAの学習支援行動に関する因子分析と同様の方法を用いた。その結果、3因子で十分な適合度が得られた（カイ2乗＝3.078、p値＝.38）（図表5参照）。すべての因子が「学習効果」と「学習姿勢」に関する設問から構成されていたが、第1因子は、自分の強みや弱み、自分への自信、大学で学ぶ意欲の高まりを表す因子であることから「大学生の学習基盤」と名付けている。第2因子は、FAの有無にかかわらず授業へ意欲的に参加しているかどうかを表す因子であることから「能動的な学習態度」と名付けている。第3因子は、ゼミ活動の理解や専門科目への興味の高まりを表す因子であることから「学術への興味関心」と名付けている。アルファ係数は、FAの経験学習支援行動と同様に十分高く（学習基盤＝.88、学習姿勢＝.82、波及効果＝.87）、信頼性が確認された。

FAの学習支援行動に関する因子として抽出された「リフレクション・サポート」と「ストレッチ・サポート」が受講生が得るもの、つまり「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」にどの程度影響を及ぼしているかを分析するため、ステップワイズ法による回帰分析を行った（図表6、7、8参照）。その結果、リフレクション・サポートとストレッチ・サポートの両方が5%水準で有意であった。ただ、R²乗が約15～20%と、

パターン行列（受講生が得るもの）				
設問 (出所、基礎演習Bより)	第1因子 大学生の学習基盤 ($\alpha = .88$)	第2因子 能動的な学習態度 ($\alpha = .82$)	第3因子 学術への興味関心 ($\alpha = .87$)	共通性
得意な授業や 苦手な授業を区別した	0.87	0.04	-0.05	0.72
自分に自信が湧いた	0.63	-0.09	0.28	0.66
大学で学ぶ意欲が 高まった	0.56	0.19	0.22	0.61
大学のどの授業でも 意欲的に参加している	0.00	0.88	0.04	0.82
FAが活躍する授業に、 意欲的に参加している	0.01	0.77	-0.02	0.59
自分が何より どんな活動をしたいか 理解するきっかけを得た	0.01	0.00	0.94	0.90
学生生活の専門科目に 興味が湧いた	0.21	0.09	0.59	0.70

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.6.

図表5 受講生が得るもの

ステップワイズ法による回帰分析の結果 (大学生の学習基盤)							
	B	SE B	β	t	p	R2値	調整R2値
step1						0.220	0.228
リフレクション・サポート	0.55	0.07	0.38	7.80	0.00		
step2						0.230	0.234
リフレクション・サポート	0.38	0.11	0.25	3.06	0.00		
ストレッチ・サポート	0.25	0.12	0.16	2.00	0.04		

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.6.

図表6 大学生の学習基盤

ステップワイズ法による回帰分析の結果 (能動的な学習態度)							
	B	SE B	β	t	p	R2値	調整R2値
step1						0.268	0.268
リフレクション・サポート	0.68	0.06	0.51	11.3	0.00		
step2						0.284	0.280
リフレクション・サポート	0.45	0.10	0.34	4.57	0.00		
ストレッチ・サポート	0.30	0.10	0.21	2.78	0.06		

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.7.

図表7 能動的な学習態度

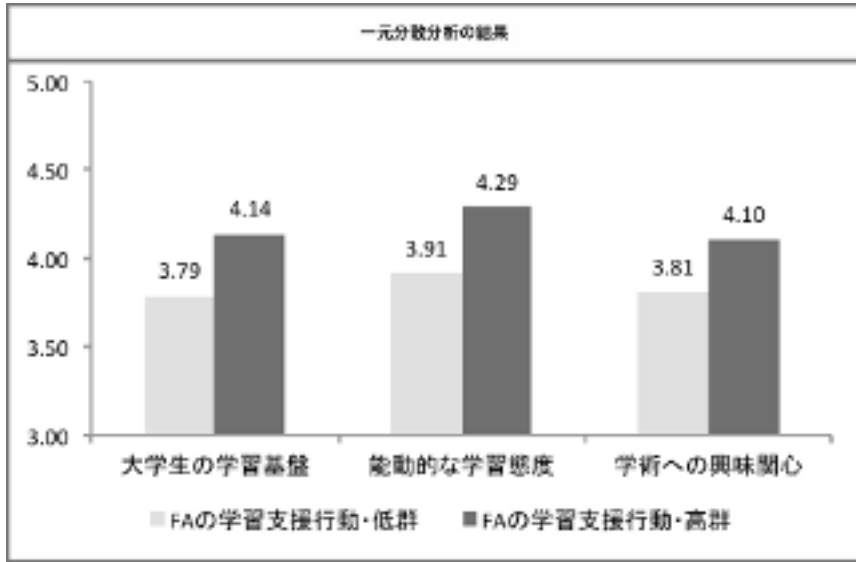
ステップワイズ法による回帰分析の結果 (学術への興味関心)							
	B	SE B	β	t	p	R2値	調整R2値
step1						0.148	0.148
リフレクション・サポート	0.55	0.07	0.38	7.80	0.00		
step2						0.158	0.154
リフレクション・サポート	0.38	0.11	0.25	3.06	0.00		
ストレッチ・サポート	0.25	0.12	0.16	2.00	0.04		

(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」、p.7.

図表8 学術への興味関心

やや予測率が低い結果となった(学習基盤 = .23、学習態度 = .28、興味関心 = .15)。この結果となった理由として、教材や教員による介入、因子として抽出された行動以外のFAの学習支援行動(授業外での行動も含む)などその他の要因も大きく影響を及ぼしていることが考えられるが、リフレクション・サポートとストレッチ・サポートにあたるFAの行動が受講生が基礎演習Bから得るものに、少なからず影響を及ぼしていることが伺えた。

最後に、因子分析と回帰分析の結果を元に、FAの学習支援行動に関する設問の加算平



(出所) イノベスト(2017)「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B科目改善とFA制度化 総括レポート」,p.7.

図表9 FAの学習支援行動が受講生に与える影響

均における上位クラス、中位クラス、下位クラスの受講生が得たものを対応なしの1元配置分散分析で比較した。その結果、上位クラスが5%水準で「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」の項目に置いて下位クラスよりも有意に高かった(図表9参照)。この結果から、上位クラスにおけるFAの学習支援行動によって、受講生が得るものに差が生まれていることが伺えた。

5. おわりに

本稿では、FAの学習支援行動が受講生に対してどのような影響を及ぼしているかについて検証した。結果として、FAの学習支援行動を表す因子として「リフレクション・サポート」と「ストレッチ・サポート」を抽出した。また、基礎演習Bから受講生が得るものとして「大学生の学習基盤」「能動的な学習態度」「学術への興味関心」の3つの要因を抽出した。FAの学習支援行動を独立変数、受講生が得るものを従属変数として回帰分析を行った結果、FAの学習支援行動が受講生が得るものに対して影響を及ぼしていることが確認された。また、FAの学習支援行動の加算平均における上位クラスと下位クラスとでは、有意に上位クラスの方が受講生が得るものの平均値が高いことが分かった。

今回の調査結果より、FAの学習支援行動のなかでも、受講生が授業で経験したことを継続的に振り返られるように支援する行動を表す「リフレクション・サポート」と、授業のなかで振り返りの素材となるようなストレッチ経験を積むことを支援する「ストレッチ・サポート」がより受講生に対して強い影響を与えることが判明した。もちろん、この2つ

のサポートをFAだけでなく教員も全クラスにおいて意識しながら行動することが基礎演習の授業改善につながるといえよう。

最後に、アンケート調査からも理解できるように、全クラスに配置されるFAの能力や意欲などのバラツキをいかに低減させるかが今後の課題ともいえる。そのためには、FAに対する研修会やワークショップを通じてスキルや知識の定着を図ることは重要かもしれない。しかしながら、基礎演習Bをはじめグループワーク形式授業を指揮・展開するのはあくまでも教員であることから、教員のFAに対する理解を高め、FAとの相乗効果により教育効果を高めていく努力が必要であることはいうまでもない。

<謝辞>

本稿を作成するにあたり、株式会社イノベストのレポート（アンケート調査結果報告）を大いに利用させていただいた。この場を借りて、衷心より感謝の念を表す次第である。もちろん、用語使用や表現上の誤り等があれば、すべてそれは筆者の責任に帰す。

注

- (1) この測定尺度は、企業マネージャーが会議等で「社員の育成・業務改善・業務遂行」を促すために実践している行動と、部下の視点から見た優れたマネージャーの内省支援行動を調査した結果をもとに作成されている。
- (2) 2017年度のシラバスでは、「アカデミックスキル」の定着と「社会人基礎力」（ジェネリックスキル）の醸成が講義目標として設定された。

参考文献

- イノベスト (2017) 「2016年度 國學院大學経済学部基礎演習B 科目改善とFA制度化 総括レポート」。
- 松尾陸 (2014) 「職場のリフレクションを促すリーダーシップ」『経営行動科学学会年次大会:発表論文集』(17)、187-192。